

# 中山道広重美術館



展示室

## 「二つのコレクション」

### 田中コレクション



歌川広重 木曾海道六拾九次之内 洗馬 歌川広重 木曾海道六拾九次之内 中津川(雨)

田中コレクションは、恵那市の実業家・田中春雄氏(1919～2012)が「木曾街道(中山道)」と「歌川広重」をテーマに、約30年の歳月をかけて収集した浮世絵のコレクションです。世界的に見てもレベルの高い揃物と評される《木曾海道六拾九次之内》をはじめ、《東海道五十三次之内(行書東海道)》、《京都名所之内》、《浪花名所図会》など質の高い広重の風景画が中心です。さらに名品《魚づくし》や、広重と共に幕末の浮世絵界を彩った歌川国芳による《木曾街道六十九次之内》、中山道について記した版本類なども含まれます。当館所蔵作品の中核を成す田中コレクションは、恵那市の宝であるだけでなく、後世に引き継ぐべき文化遺産です。

## 「歌川広重の浮世絵作品を通し 恵那の町や文化を発信する」

恵那市には旧中山道が通り、その中心である大井宿は、美濃16宿の代表的な宿場町として栄えていました。その繁栄を取り戻そうと恵那駅周辺の再整備事業が進められ、駅前広場や情報交流施設、商店街が再整備されました。

そして、これら一連の事業の総仕上げとして、平成13年9月には市内の浮世絵収集家、故田中春雄氏から寄贈を受けた歌川広重の浮世絵版画「田中コレクション」を中心に展示する中山道広重美術館が整備されました。

中山道広重美術館では、世界的に名高い歌川広重の浮世絵作品を収集、保管、研究し、広く一般公開することにより、世界に向けて恵那の町や文化を情報発信していこうと考えています。また、浮世絵や歌川広重に関する講座の開催をはじめ、地域の芸術文化振興のための各種の教育普及事業を進めています。

こうした活動とあわせて、中山道の街道文化を生かした市民の自主的・主体的な活動と呼応したまちづくり活動の展開に努めています。

### 吉村コレクション

恵那市内の旧家に生まれ、名古屋市で眼科医の元に嫁いだ吉村トシ子氏(1920～2001)は、美術に造詣が深く、夫の故・吉村善郎氏と共に、多くの美術品を収集されていました。

吉村氏は2000年10月、故郷・恵那に美術館が建設されることを知り、「文化、芸術は人の心を豊かにし、豊かな心から文化、芸術が生まれる。優れた芸術作品は、人類共有の宝」という思いから、自らの愛した美術品を郷里の美術館へ寄贈するという意向を持つようになり、翌年、美術館の開館を前に、美術品全46点と美術品購入のための多額の資金を恵那市に寄贈されました。

吉村氏から寄贈された作品は、籾木清方や伊藤深水の日本画、荻須高德、ルオー、マリー・ローランサンの洋画、ガレ、ドームのガラス工芸、加藤唐九郎や浜田庄司の茶陶等多岐に渡ります。また、寄贈された資金で購入した歌川広重の浮世絵作品と合わせ、これらを「吉村コレクション」と呼び、当館の貴重な作品資料として展示しています。



エミール・ガレ 「草花文ランプ」



歌川広重 木曾海道六拾九次之内 大井



ロビーの様子



ミュージアムショップ

## 浮世絵の “重ね摺り体験コーナー”

2階浮世絵ナビルームでは、その時々で異なる浮世絵作品の重ね摺りを体験することができます。ご来館の際はぜひご体験ください。

